

## 福島日仏協会・福島萩友会合同新年会開催

平成30年2月2日、福島日仏協会・福島萩友会合同新年会が福島市のホテル辰巳屋にて会員60名が参加し開催された。

瀬谷理事長は「今年は日本とフランスが交流し160年となり関連する行事が各地で開催されます。お互い協力し盛り上げていきましょう」と挨拶された。福島市国際交流協会会長代理 福島市副市長山本克也氏、福島萩友会会長 河田亨氏、福島民報社社長 高橋雅行氏、福島民友新聞社社長 五阿弥宏安氏らが新年の御祝辞を述べられた。

続いて戊辰150周年を記念して守谷早苗氏が「福島の戊辰戦争」と題して講演した。守谷氏が自ら資料を集め、国家を二分する権力抗争中小藩であった福島藩の悲哀や対応、世良修蔵の戊辰戦争における役割について話された。

懇親会に移り、仙台日仏協会会長 田中正人氏の乾杯で始まり、新年会に相応しく中締は菅野輝栄氏の一本締めでお開きとした。

守谷早苗氏のプロフィール

東北大学文学部史学科卒業 県立磐城桜ヶ丘高校長退任  
現在福島市教育委員会文化課市史編纂室



## 新学期に向けてアリアンス・フランセーズ仙台院長グレゴリ・デュメン氏と 福島教室担当教師イザベル・サード氏が福島の皆さんに呼び掛けています

### グレゴリ・デュメン

2014年から、イザベル・サード先生は福島日仏協会にて、フランス語を教えています。イザベル先生の授業はとても面白いと思います。授業ではフランス語を聞いたり、記事を読んだり、会話もします。

ご存じの通り、東京オリンピック開催により2020年はフランス語にとって大切な年だと思います。フランス語はオリンピックの公用語の言語だからです。

そして、東京オリンピックを目的にフランス語圏の観光客が増えるはずですが、勿論、観光客は京都と東京に見に行きたいと思います。でもそれだけではなく、東北の観光も楽しめましょう。東北地方の綺麗な景色を観たり、温泉につかったり、美味しい日本酒を飲みたいと思うでしょう。

皆さん、イザベル先生と是非楽しんで勉強してください。

### イザベル・サード

和やかな雰囲気でも面白いドキュメンタリー、フランス歌、独創的なゲーム、教育カードなどで楽しみながら勉強しましょう。フランスのガストロノミー、美しい地方やフランス人の考え方と日常生活を発見することによって、フランスの文化を深く理解することができます。フランスの教科書を使って、ネイティブスピーカーの先生と一緒に、それぞれのペースで学習していきましょう。自然なフランス語はインタラクティブとコミュニケーションを通じてのみ学ばれうるものです。ですから、この授業は口頭でのフランス語の勉強と実践に焦点をあてています。フランス語の文法や基本単語はもちろん、リズム、発音、イントネーションや身振り言語の練習も強化します。自然なフランス語をどんどん学ぶことができます。フランス語入門から上級講義までありますので、様々なレベルの方を歓迎します！



## 在仙台フランス名誉領事として



このたび在仙台フランス名誉領事に就任致しました佐藤万里子です。

福島日仏協会の皆様におかれましては、いつも多大なるご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

前任者の飯岡先生は、フランスと日本の文化・経済などの交流発展に大いに貢献されフランス共和国大統領より国家功労勲章コマンドールを受賞されました。その飯岡先生の後を引き継ぎ責任の重大さに身の引き締まる想いでおります。

名誉領事の大きな役割のひとつに在日フランス人（約12,000人）の保護があります。7年前の東日本大震災の際にも飯岡前在仙台名誉領事は、いち早く大使館に状況を報告し、その後フランスからの支援の受け入れに力を尽くされました。想定外の自然災害や事件が起こった場合、大使館と連携を取り確実な情報を報告し、フランス本国にいる家族にも安心を与えることが重要な任務と考えております。

私が申し上げるまでもなくフランスは観光大国ですが近年テロの影響や文化遺産の保護など問題が山積しているとのことでした。活発なインバウンド・アウトバウンドの推進に向けて情報の共有を痛感いたしました。

11月に来福されたローラン・ピック駐日大使は原発事故

による風評被害を深刻に受け止めておられ今後も惜しみない協力を約束すると力強いエールをおくってくださいました。

今年は、日仏外交160年という節目の年でもあり、ジャポニズム、アニメ、和食、日本酒など文化や食の交流をもっと深めて行きたいと思っています。

又、フランスは1994年に1.66と底を打った出生率が2010年には2.00まで回復した少子化に悩む先進国の中で少子化を克服した国でもあります。深刻な少子化問題やダイバーシティを進めていくうえで大いに参考にしたいと考えセミナーを開くことも検討したいと思っております。

昨年、仙台市とレンヌ市は姉妹都市提携50周年を迎えました。レンヌ市では記念に仙台庭園を築き4月末には開園する予定となっています。レンヌ市はモンサンミッシェルにも近い風光明媚なところと伺っていますので是非皆様とツアーを組んで訪れたいと思っております。

微力ではございますが東北におけるフランスの窓口として、アリアンス・フランセーズの方々とも協力をしながら滞在するフランス人の皆様の名誉領事館としての役割も果たし、福島日仏協会、仙台日仏協会の発展に力を尽くして行きたいと思っております。

今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を心からお願い申し上げます。

在仙台フランス名誉領事 佐藤万里子

## *Au nom du Président de la République française*

*Nous, Laurent PIC, Ambassadeur de France au JAPON, investi par le décret du 16 juin 1976 de la faculté de déléguer des Agents consulaires dans notre circonscription, ayant jugé utile au bien du service de nous faire représenter à SENDAI, avons, en vertu de l'autorisation délivrée à cet effet par le Ministre des Affaires étrangères le 12 janvier 2018, nommé, commis et délégué Mme Mariko SATO avec le titre de Consule honoraire de France, à l'effet d'agir sous notre direction et conformément aux dispositions des Lois, Ordonnances, Décrets, et Instructions pour tout ce qui regarde les intérêts et la protection des Navigateurs Commerçants et autres Citoyens français dans le lieu susmentionné. En conséquence, prions et requérons les Autorités compétentes de reconnaître et faire reconnaître Mme Mariko SATO en la qualité ci-dessus exprimée afin qu'il puisse assurer ses fonctions, qu'il jouisse de l'autorité et des prérogatives attachées à la dite charge et lui donner toute aide, assistance et protection partout et en toute circonstance où besoin sera.*

*En Foi de quoi, nous avons signé le présent Brevet, valable jusqu'au 11 janvier 2023 et y avons apposé le Sceau de la République.*

*Fait à Tokyo,*

*le 12 janvier 2018*



**くしゃみ** 土屋敦雄（会員）

風邪やインフルエンザの季節となり、くしゃみをする事も多くなってきた。

くしゃみの定義は医学的には『一回ないし数回の痙攣的な吸気をし、その後強い呼気を発すること』とされている。でもだれもそんなメカニズムを考えてくしゃみをする人はいない。日本語の「くしゃみ」という表現の語源は「くさめ」である。中世の日本ではくしゃみをする時鼻から魂が抜けると信じられており、そのために「くさめ」という呪文を唱えるようになり、それが「くしゃみ」の言う名前となり、その行為そのものを指すようになったという。日本語での「くしゃみ」は英語では sneeze という。日本語では『はくしょん』と言うが、英語では ahchoo（アチュー）という。ちなみにフランス語では atchoum（アッシュム）、ドイツ語では hatschi（ハッチ）である。猫の鳴き声がニャンニャンとか、ミャウミャウというように国によって音声の感じ方が違うように、くしゃみも違うのである。

英語圏ではくしゃみをすると、そばにいる人が Bless you! と声をかけてくれる。くしゃみをすると魂が抜け、悪魔が入りやすくなるので、悪魔が入らないように bless you と言うらしい。このようなことは日本での発想に似ている。山田なつみさん(会員)によるとフランスでは à tes souhaits (ア・テ・スエ) と言い、“いいことがありますように”とか“願い事が叶いますように”という意味であるという。ドイツでは Gesundheit (健康) という。ドイツではくしゃみが終わるか終わらないうちに隣にいる人から “Gesundheit!!” と言われることが多い。日本語でいえば「お大事に」といったニュアンスである。その時は Danke! (ありがとう) と返事する。

閑話休題。福島日仏協会会報 Île de Bonheur の意味は「幸福の島」、つまり「福島」を意味していると思われる。福島市内に「幸福の島」(イタリア語) のお店がある。名前は “Isola felice” というイタリア料理の店で、パセナカミッセ 2F にある。リーズナブルな値段で、スタッフがとても感じがいい。お暇な折には是非お試しを。

**art 諸橋近代美術館「夢幻×無限～エッシャー、ダリ、福田繁雄～」**

学芸課長 大野方子

この度、諸橋近代美術館では企画展「夢幻×無限～エッシャー、ダリ、福田繁雄～」を開催いたします。本展覧会では、オランダの版画家であるマウリッツ・コルネリス・エッシャー、スペイン出身でシュルレアリスムの芸術家であるサルバドール・ダリ、「日本のエッシャー」の異名を持つグラフィックデザイナーの福田繁雄の作品を中心に、だまし絵の要素とそこに潜む「夢幻」と「無限」のエッセンスに迫ります。

「だまし絵」はその名が表す通り、視覚的トリックを用いて私たちの視覚を欺く芸術表現です。その歴史は長く表現方法も実に様々で、時代を超えて我々に驚きと楽しさに満ちた発見を与えてくれます。実在し得ないものがあたかも存在しているかのような夢幻の世界を表現したり、面積の限られた紙面の上でどこまでも拡張する世界を構築することもできます。

マウリッツ・コルネリス・エッシャー (1898-1972) は元々建築家を志す青年でしたが、建築装飾学校に在学中、教師からグラフィック・アートの才能を見出されたことを機に版画の道へと転向します。卒業後は友人と共にイタリアやスペインを訪れ、山間部や沿岸の風景、アルハンブラ宮殿の幾何学的な装飾模様から触発された作品群を制作しました。この装飾模様を発端に「平面の正則分解」の研究に没頭したエッシャーは、のちに《昼と夜》(1938)に見られるように具象的な、あるいは抽象的な事物が変容を繰り返す作風を成立させました。

三次元の事物を二次元、つまり紙の上に絵として表現するという事にある種の矛盾を感じたエッシャーは、これ

をヒントに画題の領域を拡大していきました。タイル装飾のようにどこまでも無限に拡張するモチーフ、現実には建築不可能な構造物—その独特な作風は芸術界で異端視されていましたが、第二次世界大戦後にアメリカの大衆誌で作品が掲載されたことで評価が広がりました。これによって、エッシャーは芸術愛好家のみならず数学者や地理学者からも注目を集め、今や「だまし絵」と聞いて多くの人が連想する芸術家の一人となっています。

エッシャーの他、本展覧会ではダリの絵画と彫刻作品、福田繁雄のグラフィックデザインなど計 54 点を展示し、三者が織りなす二つの「ムゲン」をご紹介します。



M.C.エッシャー  
《昼と夜》 1938年  
ハウステンボス美術館蔵



M.C.エッシャー  
《滝》 1961年  
ハウステンボス美術館蔵

© All M.C. Escher works © Escher Holding B.V. - Baarn - the Netherlands

会期: 4月20日(金)  
～6月24日(日)  
会期中無休

## 「大人のプチ留学 その2」

前回、去年の夏 Vichy に短期留学した時のホームステイのお話をしましたが、今回は学校のお話をしますね。

Cavilam は、Allience Française と提携している設立1964年の歴史ある語学学校です。学校は森に囲まれて、すぐ裏には自由に飲用できる Célestin 温泉があり、美しい Allier 川も近く、環境は恵まれていました。先生方のレベルは、総じて高いと思います。校長先生はいつもロビーで新しい学生の顔まで覚えていて声をかけてくれました。Médiathèque (図書館) の人も親身に相談に乗ってくれましたし(事務の人はぶっきらぼうですが…) 皆さんとても sympa (感じがいい) でした。設備もとてもよく、Médiathèque には自由に使えるパソコンがたくさんあり、読みたい本がない時は他の図書館から取り寄せてもらうこともできました。

私はフランス語教師のためのフランス語ブラッシュアップというコースを申し込んで行ったのですが、実際には学生と教師の混在した語学コースでした。それでは物足りなさそうだと感じていたところ、教師のための教授法のクラスもあることを知り、急遽そちらに変更してもらいました。

カリキュラムは1週間ごとに渡されました。2種類のパターンがありましたが、私は *interculturel* のクラスや *activité* のクラスを取りました。

クラスメイトは平均40歳くらいの各国のフランス語の先生。普通の語学の授業だと大学生など若い人が多いですが、年代が似通っていて話がとてもあいました。出身国はスペイン・ドイツ・スイス・イラク・イラン・イスラエルなど。学校から研究費として学費を出してもらって来ている人も多かったです。そうでない人もエラスムス・プラス制度で助成金を出してもらっており、私のように全て自腹の人は少なかったです。

*interculturel* のクラスの授業提案で印象に残ったのは、いかにふだん他の国をステレオタイプに見ているか、自分の国を基準に考えているか、ということを実践を通してあぶりだし、真実をお互いに知り理解することが大事、というもの。「過去」「現在」「未来」をそれぞれ丸

にして表現させたとき、私は三つの輪を順に描きましたが、重ねて書いたり順番が逆だったり、国によって違うことに驚きました。

*activité* のクラスでは、グループになって1つの発表を作り上げたり、歌を聞き取って絵を描いたり、ボールを投げて自己紹介・他己紹介をするなど、様々なアイデアをもらえました。ただ、初心者にも自由に発言させる授業が多かったのですが、フランス語と似た単語を持つヨーロッパの学習者には適用できても、全く違う言語をもつ日本人学習者は「単語を推測する」ことさえ困難なので、適用は難しいと思いました。

休み時間には、近くの美味しいパン屋でコーヒーやクロワッサンを食べながら(朝のパンだけではお腹がすいてしまっ)クラスメイトとおしゃべり。お昼は、安いけれど出来合い料理が多い学食にはあまり行かず、グルメの街 Vichy の評判のお店を食べ比べに行ってみたりしてみました。

休日や平日夕方には、学校主催で、クレルモンフェランなどへバス遠足、Allier 川岸でのペタンク大会、チーズ・ワインの試食会、映画会などの企画があり、それらへの参加をきっかけにクラスメイトとも大変仲良くなりました。Allier 川岸のレストランでみんなで夕食をとったり、最後には「les plus beaux villages de France フランスで一番美しい村々」の1つ Charroux にも車に分乗して遊びに行きました。その時の結束をもとに、今でも WhatsApp という交流アプリで情報交換を続けています。

清田 彩子



## 2018 年度春季 実用フランス語技能検定試験

公益財団法人フランス語教育振興協会

■実施級 1級、2級、準2級、3級、4級、5級

■実施日程 1次試験(1・2・準2・3・4・5級) 2018年6月17日(日)  
2次試験(1級・2級・準2級の1次合格者対象) 2018年7月15日(日)

■受付期間 願書郵送によるお申込: 4月1日(日)~5月16日(水)※消印有効  
インターネットでのお申込: 4月1日(日)~5月23日(水) 23:59 まで

■福島会場 福島学院大学 福島駅前キャンパス

